

じんけん探訪86

性的マイノリティ



日本における当事者のイメージ

大多数の男女の在り方とは違うことで、長らく顧みられてこなかったのが性的少数者の問題です。

芸能界でのメディアが作り出すイメージとは対照的にただ日常を穏やかに生きたいだけの一般の当事者は、それに当てはまらない自身とのギャップに長く苦しめられてきました。人権先進国が性的少数者の問題を人権課題として取り扱い、改善していく中で、日本では遅々として進んできませんでした。

「性同一性障害特例法」

日本では、2004年に医師の診断に合わせて特定の要件を満たせば戸籍上の性別を変更できる「性同一性障害特例法」が施行されました。しかし本法では、生殖機能の放棄や身体変容を戸籍の性別変更の要件としていいます。これに対して、2014年にWHOをはじめとする複数の国際機関が、それを望んでいない当事者にまで一律に強要することは人権侵害であるという主旨の声明を発表しています。

市民権を得た「LGBT」

LGBTとは、女性の同性愛者（レズビアン）、男性の同性愛者（ゲイ）、両性愛者（バイセクシャル）、身体と心の性が一致していない（トランスジェンダー）の頭文字をとって組み合わせたものです。今、これ以外にも自分のセクシュアリティ（性）が分からない

人・決めていない人・決まっていな人... 性的欲求を抱かない無性愛者（アセクシユアル/エイセクシユアル）の「A」、自分の性が男女のどちらにも当てはまらない、あるいは、揺れ動いているエックスジェンダーの「X」や生まれながらにして男性と女性の身体構造を持つ人であるインターセックスの「I」などの頭文字が付け足されることもあり、性の多様性が見てとれます。

性の多様性の受け止め方

性別の種類は、身体的な性、自認する性、指向する性、表現する性の4要素があり、組み合わせによって多様な性のあり方が存在するとされ、男性と女性の2つしかないという認識は、正しくありません。つまり、「身体的性と違う振る舞いをしている」「恋愛スタイルが自分と違う」から人間としておかしいということは間違いです。

男性か女性のどちらかではないという社会や意識は、マイノリティの人たちを排除してきたといえます。性については、多様であることを前提として向き合うことが、差別解消の第一歩になるのかもしれない。*

「パートナーシップ宣誓制度」

2015年、東京都渋谷区と世田谷区で「パートナーシップ制度」が開始され、7月1日時点で全国の110の自治体で導入されています（渋谷区・虹色ダイバーシティ全国パートナーシップ制度共同調査。市でも2020年1月からパートナーシップ宣誓制度を導入し、宣誓のあったカップルを結婚に相当する関係と認め、証明書を発行しています。

▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008

目指せ男女共同参画社会

No.81

ハラスメント防止に向けて

「無意識の偏見」

（アンコンシャス・バイアス）に気付いていますか

自覚の無い無意識の偏見を表す言葉として、「アンコンシャス・バイアス」という言葉があります。過去の経験や習慣、周囲の環境などから身に付くものであり、自分自身が気付いていないモノの見方や捉え方のゆがみ・偏りを表します。

一番身近な分かりやすい言葉を紹介すると「女らしく」「男らしく」「普通は○○だ」などがあります。

それぞれの経験や育った環境が違うので、モノの捉え方は違って当たり前です。しかし、無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）が意図せず、モチベーションの低下やハラスメントに発展する可能性を秘めています。

例えば、職場で育児休業から復帰する女性に対して、上司が女性のことを気遣い「良かれ」と思って仕事量を減らす配慮をしたとします。これは、あくまでも上司の推察です。しかし、女性が復帰後すぐに休業前のように活動的に働きたいと思っていた場合、上司

の「無意識な思い込み」によって、女性にはさまざまな機会が与えられず、これが原因で女性の成長や昇進する機会を奪ってしまうことになりかねません。

女性の仕事に対するモチベーションは低下し、ハラスメントと認識してしまう可能性もあるでしょう。こういったことを無くすためには、相手と会話し、本心やその人の背景を把握することが重要です。また、自身がどのような「無意識な思い込みや決め付け」を持っているかを知った上で、今まで持っていた価値観が偏見であったことを認められる柔軟な心構えを持つことが大切です。

と、一人ひとりが異なる存在として、個性を尊重し合うことができるでしょう。ぜひ、この機会に個々のアンコンシャス・バイアスを目を向け、意識してみてください。そして、お互いのコミュニケーションで、気になることがあったときには、気軽に声を掛け合える環境づくりをめざしてみませんか。

▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008



健康コラム

Vol.31

コロナ禍での屋外運動と熱中症対策！

外出自粛や在宅勤務などによって、家にいる時間が長くなると、間食が増える傾向にあります。

運動不足で体重が増加すると、新型コロナウイルスに感染した場合に、重症化するリスクが高まるといわれています。したがって、適度な運動を心掛けることが必要です。

しかし、暑い時期にマスクをした状態での運動は辛い場合があります。マスクを着けることで熱中症になりやすいということがあります。マスクを着けていると呼吸がしにくくなり、心拍数や呼吸数が増えたりというデータもあります。そこに運動や気温の急激な上昇が加わると、熱中症になるリスクが高まります。

この時期、高齢者や1人暮らしの人は特に熱中症に注意すべきです。屋外であれば木陰などの人が少ない場所でマスクを外して休むことを心掛



四国学院大学教授 緑ヶ丘総合運動公園センター長 清水 幸一さん

けましょう。さらに、マスクが汗で濡ると通気性が悪くなるので、適度に切り替えることも必要です。

また、過度な日光を浴びることは、皮膚ガンのリスクを高める恐れがあるので避けなければなりません。日光が当たることで、ビタミンDが体内に合成されます。ビタミンDは、カルシウムの吸収や筋肉の合成を促し、免疫の機能を調整・維持する重要な働きを担っています。

体の調子を整えるためには、1日10分ぐらいの適度に、外で活動することも必要です。



9月5日から11日は、救急医療週間
▶問い合わせ 三観広域北消防署 ☎72-2119

空き家などの実態調査を実施します
▶問い合わせ 建築住宅課 ☎73-3044

救急医療の正しい理解と認識を持つ上で、次のことを心掛けましょう。
●もしものときのために、人工呼吸や止血など、正しい応急手当の方法を身に付けておきましょう。
●病気のことで、いつでも相談できるホームドクター（かかりつけの医師）を持ちましょう。
●急病以外は、できるだけ診療時間内に受診しましょう。
三観広域消防署では、応急手当普及啓発活動を推進しています。
自治会や事業所などで応急手当講習会を行うときは、ご相談ください。



市では、市内全域の空き家などの状況把握および空き家等対策計画を策定するため、空き家などの実態調査を行います。
調査員証を携行した調査員が市内を巡回し、空き家であると思われる建物を外観調査します。調査員がみだりに敷地内へ立ち入ることはありませんが、不審な際は、調査員証の提示を求めらるか、建築住宅課までご連絡ください。
調査期間 9月中旬～
令和4年1月中旬
調査内容 空き家と思われる建物の外観調査および写真撮影

